

昭和十四年六月

會 報

第一號

大日本國防婦人會猿橋町分會

目次

一、會 則……………	一
二、貯蓄組合理約……………	五
三、分會本部役員……………	七
四、昭和十二年度概要……………	八
五、昭和十三年度概要……………	二二
六、班別一覽表……………	二六
七、會員並貯蓄組合理員名簿……………	三〇

各班の役員にお願い

○各班の役員は會員の異動（入會又は退會）については直ちに會員名簿を加除して本部へお知らせ下さい

○會員にして貯蓄組合理員となつて居ない方は成るべく組合理員になる様お話し下さい

○會員名簿と組合理員名簿との氏名及其の文字の一致する様御注意下さい

○氏名及積立開始年月等については本部へ御申出で下
さす

○第一號で不充分の點があると思ひますが各班と照合に時間がかかるので本部の調査を
登載しました

總務

大日本國防婦人會猿橋町分會會則

第一章 總 則

第一條 本分會ハ大日本國防婦人會猿橋町分會ト稱ス

第二條 本分會ノ事務所ハ猿橋小學校内ニ置ク

第二章 目的及事業

第三條 本分會ハ舉國皆兵ノ精神ニ基キ日本婦徳ヲ發揮シ日本婦人トシテ護國ノ大義ヲ實踐履行シテ國防上銃後ノ力ト爲ルヲ以テ目的トス

第四條 本分會ハ其ノ目的ヲ達成スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

- 一、心身共ニ健全ナル子女ヲ教養シ以テ護國ノ任ヲ遂行セシムルコト
- 二、兵役ニ服スル者ニ對シ精神的ニモ物質的ニモ後顧ノ憂ナカラシムル如ク家事ヲ整ヘシムルコト
- 三、一旦緩急アル場合ニ善處スル爲必要ナル精神的教養及訓練ヲ遂ケシムルト共ニ家庭經濟ヲ確立シテ國家經濟ニ寄與セシムルコト
- 四、皇軍將兵ニ對シ婦人トシテ後援ノ誠ヲ致スコト
- 五、傷痍軍人及其ノ家族戰病死者遺族並ニ皇軍將兵ノ家族ニ對シ母性愛ヲ基調トスル慰恤ノ誠ヲ致スコト

六、前各號ノ外國防思想ノ涵養、會員ノ一致和偕、本會ノ目的ヲ普及徹底セシムル爲メノ施設其ノ他本會ニ適合スル事業

第三章 組織

第五條 本分會ハ猿橋町ニ在住スル婦人ニシテ本會ノ趣旨ニ賛同スル者ヲ以テ組織ス

第六條 本分會ハ總本部、縣本部並ニ北都留支部ノ指令ニ從フヘキモノトス

第四章 役員及顧問

第七條 本分會ハ適當ノ地域ニ班ヲ置キ班ヲ更ラニ分チテ若干ノ組ヲ置ク

第八條 本分會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長	一	名
副會長	三	名
理事	若干	名
班長	若干	名
組長	若干	名
副組長	若干	名
總務	一	名

理事中若干名ハ男子ニ之ヲ委嘱スルコトアルヘシ

第九條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

理事ハ會計其他會務ヲ掌ル

班長ハ所屬ヲ統制シ會長ノ旨ニ從ヒ會務ヲ執行ス

組長副組長ハ班長ノ旨ヲ受ケテ會務ニ當ル

總務ハ會長ヲ扶ケ會務ニ當ル

第十條 會長及副會長ハ會員中ヨリ班長之ヲ選出ス

其ノ他ノ役員ハ會長之ヲ委嘱ス

第十一條 役員ノ任期ハ一ケ年トス 但シ重任ヲ妨ケス

補缺ニ依リ就任シタル役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十二條 本分會ニ顧問若干名ヲ置ク

顧問ハ會長推薦シ會長ノ諮問ニ應ス

第五章 資産及會計

第十三條 本分會ノ資産ハ會員ノ納入金事業ノ收入及寄附金トス

第十四條 本分會員ノ納入金ハ一ケ年貳拾錢トス

第六章 會議

第十五條 本分會ハ毎年一回總會ヲ開催ス

臨時總會ハ必要ニ應シ之ヲ開ク

第七章 雜

則

第十六條

會員ハ白色割烹衣ヲ著シ「大日本國防婦人會」ト記シタル白色襟章ヲ掛クルモノトス

第十七條

本分會々則ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ改廢スルコトヲ得ス

猿橋 國防婦人會 愛國一錢貯金組合規約

第一條

本組合ハ國民貯蓄ノ趣旨ニ依リ非常時財政經濟政策ニ協力シ貯蓄報國ノ實ヲ舉グル爲メ貯蓄ヲ勵行スルヲ以テ目的トス

第二條

本組合ハ猿橋國防婦人會愛國一錢貯金組合ト稱シ事務所ヲ猿橋小學校内ニ置ク

第三條

本組合ハ猿橋町國防婦人會員ヲ以テ組織ス

第四條

本組合ハ第一條ノ目的達成ノ爲メ左ノ事業ヲ行フ
一、組合員ノ郵便貯金ヲ斡旋スルコト
二、貯蓄心ノ普及涵養ヲ圖ルコト

第五條

本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

組合長 一名 常務理事 一名 理事 十八名

第六條

本組合ノ役員ハ無報酬トシ其ノ任期ハ二ケ年トス

第七條

組合長ハ國防婦人會長ヲ以テ之ニ充ツ

常務理事ハ國防婦人會總務 理事ハ國防婦人會班長ヲ以テ之ニ充ツ

第八條

組合長ハ組合ヲ代表ス 常務理事ハ組合長ノ旨ヲ承ケテ組合事務ヲ統理シ 理事ハ常務理事ノ旨ヲ受ケテ事務ノ處理ニ當ル

第九條 組合員ハ一口以上ヲ持ツ義務アルモノトス 一口ノ金額ハ一日一錢一ケ月三十錢トス

第十條 組合員ノ貯金ハ一括常務理事ニ於テ郵便貯金トス 組合員ハ左ノ事由ノ外貯金ヲ拂戻サルモノトス

第十一條 一、他町村ヘ轉住ノ爲メ脱退シタル時 一、其他特別ノ事由ニヨリ組合長ノ承認ヲ得タル時

第十二條 組合員ノ中途脱退ニハ利子ヲ附セザルヲ本体トスルコト

第十三條 本組合並組合員ニハ左ノ表簿ヲ備フ
一、貯金通帳 (組合員保管) 一、集金表 (組長保管)
一、受拂簿 (理事保管) 一、班別明細簿 (本組合保管)

第十四條 一、貯金出納簿 (本組合保管) 一、貯金通帳 (本組合保管)
本規約實施上必要ナル細則ハ理事會ノ決議ヲ經テ組合長之ヲ定ムルモノトス

附則 本規約ハ昭和十三年五月一日ヨリ之ヲ實施ス

分會本部役員

- 分會長 奈良政代 (昭和一二、九、一〇就任)
- 副分會長 長坂まさ志 (全)
- 全 市川けい (昭和一三、五、一就任)
- 全 丹澤ふみ (昭和一四、五、一就任)
- 理事 吉川ひさ (昭和一二、九、一〇就任)
- 全 仁科繁子 (全)
- 全 北條梅子 (全)
- 全 川村とし子 (全)
- 全 石原みつ (昭和一四、五、一就任)
- 全 後藤登茂恵 (昭和二三、五、一就任)
- 全 一條武子 (全)
- 總務 長坂慶俱 (昭和二三、五、一就任)

昭和十二年度庶務概要

昭和十二年
九月十日 猿橋小學校ニ創立委員會ヲ開催ス
九月十九日 猿橋小學校ニ創立總會ヲ開ク
十月五日 資金増成映畫會ヲ白猿座ニ催シ純益金百十三圓四十五錢ヲ得
十月八、九日 真綿講習會ヲ蠶業取締所ニ開キ受講生延七十餘名アリタリ
十月廿九日 四百五十個ノ慰問袋ヲ作製銃後々援委員會ヲ經テ献呈ス
十一月十二日 出征軍人家族百〇四名ヲ白猿座日吉劇ニ招待ス
十二月十七日 甲府陸軍病院内ニ傷病兵娛樂室建設寄附スルニ付金拾參圓六十九錢ヲ寄附ス
十二月二十四日 出征軍人家族歳末慰問ヲ一齊ニ行フ
昭和十三年 會長外十八名甲府陸軍病院ニ傷病兵ヲ慰問ス
其 他
一、出征兵士ヲ歡送スルコト二十九回
二、遺骨奉送迎四回
三、町村葬ニ會葬スルコト三回
四、役員會開催十八回
五、部落座談會十五回
尙廢品蒐集、不用品再生等ヲ繼續的ニ行ヒ本會資金増成ニ努メタリ

昭和十二年度會計狀況

(昭和十二年九月ヨリ
昭和十三年三月マデ)

收入之部

一金二百三十圓八十三錢
 一金百四十二圓三十七錢
 一金百九十九圓八十五錢
 一金五十二圓六十錢
 一金二十四圓一錢
 計金六百四十九圓六十六錢

會 勤 映 寄 雜
 所 勞 畫 附 收
 得 費 會 金 入

支 出 之 部

- 一金百一十一圓三十九錢
- 一金三十圓
- 一金百三十三圓七十五錢
- 一金百〇六圓十錢
- 一金十四圓二十五錢
- 一金八圓六十七錢
- 一金一圓八十四錢
- 一金九圓三十錢

計金四百十五圓三十錢

收支差引金二百三十四圓三十六錢殘金

寄 附 金 內 譯

- 金二圓
- 金三圓
- 金四圓
- 金一圓
- 金三圓

軍人並家族慰問
陸軍病院慰問
櫻、班旗、國旗
映書會諸費
諸用紙代
眞綿製作原料
通信費
雜支
出

みの屋様
黒部さな様
落合せん様
大黒屋様
役員

- 金一圓
- 金一圓
- 金二圓
- 金五圓
- 金一圓
- 金九十錢
- 金十六圓三十五錢
- 金七圓三十錢
- 金四圓八十五錢
- 金二十錢
- 計金五十二圓六十錢

大野よし子様
名取るい様
大野いつ様
田中ます代様
藤本さと様
伊藤よし様
吉川實治様
奈良重威様
奈良よね様
殿上二班

昭和十三年度庶務概要

昭和十三年 昭和十三年度總會ヲ白猿座ニ開催

五月十一日 本日ヨリ三日間ニ亘リ出征遺家族慰問ヲナス

五月十八日 本日迄十六ヶ所ニ於テ班別座談會ヲ催ス

七月七日 事變記念日一汁一菜ニ依ル献金ヲ各班ヨリ集メ五十八圓六十二錢

役場ニ提出ス

八月二十三日 出征軍人御家族ヲ白猿座ニ御招待ス

九月五日 各班廢品ヲ蒐集賣却慰問袋費トシテ本會ニ提出 計五十四圓八十

六錢

九月二十九日 本日ヨリ三日間殿上猿橋ノ二ヶ所ニ於テ眞綿掛ケヲ行フ、出役者

延七十八名

十月十日 本日ヨリ四日間眞綿加工腹巻作製ノ爲メ殿上猿橋役員延六十八名

出役

十月二十五日 本日ヨリ五ヶ所ノ班ニ於テ班別座談會ヲ開ク

十一月五日 會員四十五名多摩御陵高尾山ニ參拜ヲナシ戰勝並ニ武運長久ノ祈

願ヲナス

十一月十八日 役場ヨリノ依頼ニヨリ慰問袋五百三十ヶ作製ノ爲役員十三名出役

ス

十二月九日 本日ヨリ二日間慰問袋調製ノタメ役員延三十二名出役七十一個ヲ

完成シ書留郵便ニテ發送ス

昭和十四年 讀賣新聞社主催小侯特派員報告講演會ニ出征遺家族ヲ招待ス

一月三十一日 故知見徹様ノ御遺骨ヲ御迎ヘシ實家迄御見送ス

二月十一日 愛國一錢貯金ノ成績優良ナルニヨリ國民貯蓄獎勵局長官ヨリ表彰

セラル、ニ付會長縣ニ出頭表彰狀並賞品トシテ山梨縣ヨリ額面七

圓五十錢ノ貯蓄債券二枚ヲ授與セラル

三月二十六日 故陸軍歩兵伍長知見徹様町葬儀ニ付一同會葬ス

四月二十三日 貯金表彰披露會ヲ小學校ニ開催シ役員全部ニ記念品ヲ贈呈シ祝賀

茶話會ヲ催ス

四月二十五日 町内歸還兵士十四名ニ記念品ヲ贈リ感謝ノ意ヲ表ス

其ノ他

一、本町出征並ニ入營兵士及郷土部隊出征歡送三十一回

二、遺骨英靈ノ奉送迎十五回

三、町村葬ニ代表者並全員參列九回

四、遺家族慰問並見舞等七回
 五、班長會議三回 理事會一回

昭和十三年度會計狀況

(昭和十三年四月ヨリ
 昭和十四年四月マデ)

收	入	之	部
金二百三十四圓三十六錢	前年度繰越		
金百七十八圓〇三錢	寄附金	(内譯別項ノ通り)	
金八十三圓二十四錢	會費		
金二十圓	縣獎勵金		
金五十四圓八十六錢	廢品賣却		
金六圓	眞綿賣上		

金九圓四十一錢	利子受入
金三圓二十五錢	雜收
計	入
金五百八十九圓十五錢	

支 出 之

金二十二圓八十錢	軍人並家族慰問
金二十八圓	出征兵士餞別
金三十九圓九十五錢	軍人家族慰安
金十六圓八十九錢	戰死者並軍人家族香料
金十二圓七十五錢	歸還軍人慰問
金百二十三圓二十錢	出征兵士慰問袋
金二十六圓〇三錢	諸用紙印刷代
金四十四圓	通 信 費
金十一圓二十八錢	縣本部へ納付金
金四十六圓八十錢	總會費
金十四圓五十五錢	國旗、襷、徽章代
金十一圓五十錢	雜 支
計	出
金三百五十四圓十九錢	

收支差引金 二百三十四圓九十六錢 現在金

○ 寄附金内譯

金二十圓	乾繭組合殿	野菜乾燥ノ謝禮
金六圓十二錢	猿橋殿上役員様	出征軍人家族招待菓子代
金一圓	奈良政代様	全
金十圓	小笠原國枝様	愛娘結婚記念
金二圓十錢	小山しげ子様	轉任ニシキ
金一圓八十錢	岩崎すみ子様	全
金一圓十錢	中村しゆん様	カルサンぬひ賃
金六圓五十錢	驛會員一同様	新年會ヲ止メテ
金二圓	大野りつ様	遺志により
金五十圓	故田村ことの様	御主人ノ法要ヲ節約シテ
金五圓	遠山楠枝様	軍需品ノ縫賃
金七十五錢	全	全
金四十一錢	中西せい様	轉任ニ付
金二圓	矢野寛次様	愛娘結婚記念
金十圓	金丸いさ様	

金一圓	全	
金五圓	故長坂幸定様	戰線ヨリ
金三十圓	奈良重威様	愛孫結婚記念
金三圓	永沼とめ、永沼敬子様	法要記念
金二十五錢	小學生數名様	わらびヲ折ツテ
金十圓	旭小澤班様	勤勞シテ
金五圓	小倉班様	全
金五圓	白川一覺様	歸還祝トシテ
計金百七十八圓〇三錢也		
外ニ五厘銅貨二百二十一枚	高橋さみ様	

班別一覽表

(昭和十四年五月末日現在)

班名	會員數	貯蓄組合員數	全上口數	昭十四年五月末日現在 積立金總額	備考
殿上一班	六六	六〇	七五	二〇四三〇	
殿上二班	四八	四一	四四	一五八七〇	
小柳班	一〇三	九一	一一七	三一五三〇	
壽班	七三	六五	七九	二七八一〇	
仲町班	四八	四八	五一	一七三五〇	
横町班	四〇	四一	四二	一四六一〇	
橋向一班	四五	四五	六一	一九四二〇	
橋向二班	三二	八	八	二四九〇	
小倉班	三五	三二	三二	九九六〇	
田中班	三一	二八	二八	九四五〇	
幡野班	三五	二七	二七	一〇〇五〇	
小澤班	六三	四四	四五	一三五六〇	
旭小澤班	四五	四〇	五二	一四六四〇	
小田班	七〇	五七	五七	一七三一〇	
太田班	二二	一八	一八	六六三〇	
久保班	二二	二〇	二一	七六〇〇	
津成班	一七	一五	一五	四九八〇	
小篠班	六七	六〇	六三	一八二一〇	
合計	八六二	七四〇	八三五	二、六一九〇〇	